

九州産業大学



福岡市東区に位置する九州産業大学は、9学部・5研究科を有し1万人以上の学生が学ぶ総合大学である。

1960年、「産学一如」を建学の理想に掲げ、商学部の単科大学として創立された。創立以来、「産業と大学は、車の両輪のように一体となつて、時々の社会のニーズを満たすべきである」という建学の理想を追求し、今年で創立60周年を迎える。

本学では60周年を第二期の創生期と位置付け、5年前

から「地域密着型大学」を目指し、教育改革を始めとして大学全体の改革に取り組んできた。

具体的には、入学者全員が2年間全学共通で教養科目や外国語などを学ぶ「KSU基盤教育」の導入、本学独自のPBLである「KSUPプロジェクト型教育」の拡充などの改革を実施してきた。また、2016年から3年をかけた、大学全ての学部学科を再編し、教育研究体制を刷新した。

創立60周年の今年、本学は創立100周年を見据え、教職協働で建学の理想を具現化するスローガン「新たな知と地をデザインする大学」を制定し、社会の役に立ち、社会から高く評価される大学を目指している。

九州産業大学

榊 泰輔
さかき たいすけ

九州産業大学 学長



榊泰輔学長は、2018年4月、現職に就任。1985年九州大学理学部卒業。同年、株式会社安川電機製作所（現・株式会社安川電機）に入社し、在職中の1995年5月、東京大学博士（工学）取得。2003年9月、本学工学部教授に就任。

専門は、リハビリテーション科学・福祉工学、知能機械学・

機械システム、制御・システム工学。これまでに企業や医療機関等と連携し、全身性麻痺障害者の電動車椅子や、歩行リハビリロボットなど、数多くの医療福祉ロボットの開発と実用化に携わってきた。

ITやAIの普及により、産業界を取り巻く環境は大きく変化しつつあり、本学は、産業界のニーズに応えるために、実務能力が高く、ITに強く、外国語にも堪能な「感性に優れたグローバル人材」を育成し、産業界から必要とされる人材を輩出し続けていくことを目指している。

著書は、「臨床医とコメディカルのための最新リハビリテーション」、「パワーアシストロボットに関する材料、電子機器、制御と実用化、その最新技術」（いずれも共著）など。

同志社大学

うえき ともこ
植木 朝子

同志社大学 学長



松岡敬前学長の任期満了に伴い、2020年4月1日付で植木朝子文学部教授が学長に就任した。

植木新学長は1967年東京都生まれ。1995年お茶の水女子大学大学院博士課程人間文化研究科比較文化学専攻単位取得退学。1998年博士（人文科学）（お茶の水女子大学）。十文字学園女子大学助教などを経て、2005年同志社大学文学部国文学科助教。2007年同教授。2015・16年度に文学部長・文学研究科長、2017・19年度に副学長。

専門は日本中世文学で、主な著書に『梁塵秘抄の世界』（角川選書、2009年）、『今様』（笠間書院、2011年）、『風雅と官能の室町歌謡』（角川選書、2013年）、『梁塵秘抄』（ちくま学芸文庫、2014年）などがある。

多様性と寛容をキーワードとして、特にダイバーシティの推進と社会連携の強化に注力し、良心を手腕に運用する人たちを世に送り出すことで、よりよい社会を実現していくという同志社大学の使命を果たしたいと考えている。

明治大学

だいろくの こうさく
大六野 耕作

明治大学 学長



土屋恵一郎前学長の任期満了に伴い、4月1日付で大六野耕作教授が学長に就任した。

大六野新学長は1954年福岡県生まれ。1977年明治大学法学部卒業、1982年同大学院政治経済学研究科博士後期課程単位取得退学後、同大学政治経済学部専任教員となり、現在に至っている。同大学においては、政治経済学部長、副学長（国際交流担当）、学長室専門員長等、要職を歴任している。

専門分野は比較政治論。主な著書として『比較政治学とデモクラシーの限界・臨床政治学の展開』岡野加徳留・

大六野耕作編著（東信堂・2001年）が挙げられる。

趣味はラグビー。温厚で気さくな人柄のため人望が厚く、体育会ラグビー部部长を長年務めた。また、大局から物事の本質を捉える的確な判断力には定評がある。米国デューク大学、同ノースイースタン大学、ラオス国立大学でも教鞭をとるなど、学内きつての国際派としても知られる。

来年2021年に創立140周年を迎える明治大学をさらに「前へ」飛躍させるべく、強力なリーダーシップが期待されている。

芝浦工業大学

鈴木 健夫

学校法人芝浦工業大学 理事長



学校法人芝浦工業大学は、新理事長に2020年2月19日付で学校法人芝浦工業大学理事、芝浦工業大学校友会長である鈴木健夫を選任した。

鈴木新理事長は1948年1月北海道生まれ。1970年芝浦工業大学工学部建築学科卒業。旭硝子株式会社(現・AGC)を経て、1992年旭硝子ビルウォール株式会社(現・旭ビルウォール株式会社)常務取締役、1998年同社専務取締役、2003年同社取締役社長、2007年同社代表取締役社長に就任した。2006年から2014年までは日本GRC工業会会長も務めた。

鈴木新理事長は、民間企業経営の知見をベースとした迅速かつ的確な経営判断のもと「スピーディな改革の継続」、「学校法人の永続性を担保する盤石な財務基盤の確立」、そして2022年竣工予定の豊洲キャンパス第二校舎をはじめ創立100周年に向けた各キャンパスのグランドデザイン策定」を中長期目標に掲げ教職掌一丸となつて推進する所存である。また、卒業生である鈴木新理事長は、母校の発展と生徒・学生を中心に据えた学校経営をモットーとし、教職員がより働きがいを持てる人事給与制度の再構築を目指している。

大東文化大学

内藤 二郎

大東文化大学 学長



4月1日付で内藤二郎教授が学長に就任した。内藤新学長は1965年神戸市生まれ。在広州日本国総領事館専門調査員等を経て2002年に神戸商科大学(現・兵庫県立大学)で博士(経済学)の学位を取得した後、大東文化大学経済学部に着任、国際交流センター所長、副学長などを経て、学長に就任。中国経済経営学会副会長などの重責を担っているほか、板橋区行政評価委員会委員長、財務省財務総合政策研究所中国研究会委員なども歴任している。

内藤新学長の専門は、現代中国経済(主に財政問題)。著書『中国の政府間財政関係の実態と対応』1980、90年代の総括(日本図書センター)ほか、多数の共著書、論文等がある。

大東文化大学は、1923年に設立された大東文化学院を前身に、現在8学部20学科を有する総合大学で、3年後には創立100周年を迎える。

内藤新学長は、「しくみの変革」「教育・研究の一層の充実」「基盤の強化・確立」を掲げつつ、教職員一体となつた「開かれた大学」を目指して、改革に取り組んでいる。

フェリス女学院大学

荒井 真 あらい まこと

フェリス女学院大学学長



秋岡陽前学長の任期満了に伴い、2020年4月1日付で荒井真教授が新学長に就任した。任期は4年。

荒井新学長は、1964年東京都生まれ。1988年上智大学法学部法律学科卒業、同大学大学院法学研究科博士後期課程を単位取得満期退学後、日本学術振興会特別研究員を経て、1997年フェリス女学院大学国際交流学部講師、2010年に教授となる。2012年からは学校法人フェリス女学院理事、2013年(2017年まで)副学長などの役職を務めてきた。専門分野は比較法、ヨー

ロッパ法史、ヨーロッパ大学史。現在は、ナチス期ドイツの法律家、とりわけ弁護士層の行動について研究している。

本学の母体となるフェリス女学院は、1870年にアメリカ改革派教会の伝道師であるメアリー・E・キダーにより創設され、今年で150周年を迎える。

教育理念である「For Others」を実践するため、本学では「新しい時代を切り拓く女性」を育成すべき人材像として掲げている。新学長は、改革の意欲をもった学生をこれからも広く社会に送り出していきたいと抱負を述べている。

宮城学院女子大学

末光 眞希 すえみつ まき

宮城学院女子大学学長



平川新前学長の後任として、4月1日付で宮城学院女子大学学長に就任した。任期は3年。

末光新学長は1953年札幌市生まれ。1980年東北大学大学院工学研究科電子工学専攻博士課程修了(工学博士)。1990年東北大学電気通信研究所助教授、2003年同大学学際科学国際高等研究センター教授、2008年同大学電気通信研究所教授。2017年度に同研究所ナノ・スピンの実験施設長。2018年3月に定年退職し、4月に東北大学特任教授に就任した。

主たる研究分野は半導体工学。半導体素子に用いられる各種薄膜の形成機構の解明と応用研究に従事し、二次元結晶グラフェンをシリコン結晶上に形成する技術を世界に先駆けて開発した。趣味は合唱とオルガン。2009年にはオペラ「魔笛」でモノスタトス役を好演し、2017年には米カーネギーホールにて東北大学男声合唱団を指揮した。

新学長のモットーは「急がばまわれ。」合唱指揮者としての長年の経験から、トップダウンやリーダーシップは現場の声をよく聴いて初めて実現すると考えている。

名古屋学院大学

赤楚 治之

名古屋学院大学 学長



小林前学長の任期満了に伴い、4月1日付で赤楚治之外国語学部教授が学長に就任した。任期は3年。

新学長は1959年大阪府生まれ。同志社大学大学院文学研究科英文学専攻博士課程前期(文学修士)、ウィスコンシン州立大学大学院(M.A. in Linguistics)を修了。専攻分野は英語学。1989年に外国語学部講師として着任。1999年に外国語学部教授に就任し、外国語学部長、大学院外国語学研究所長、学生部長を歴任している。

名古屋学院大学は建学の精神に「敬神愛人」を掲げ、高

い志と豊かな国際感覚を備えた人材を社会に送り出す教育を一貫して進めている。開学(1964年)以来、国際交流に力を注ぎ、近年は地域貢献にも取り組んでいる。開設3年目を迎える国際人材教育拠点GLOBAL LINKSでは、

学生の主体的な学びが確立しつつあり、新学長はこの機運を高めていきたいと話す。高い可能性を持つ伸びしろのある学生と彼らを支援する教育マインドをもった教職員が存在が本学の最大の強みであると語る。ポジティブ志向の赤楚新学長に、次世代を見据えた大学運営が期待される。

追手門学院大学

真銅 正宏

追手門学院大学 学長



本院の教育改革宣言「WIL(Work-Is-Learning)」「成長の可視化」「ICT活用、未来社会対応」「教育の質保証」を実現するために、学長就任に当たり「Student First」「ブランド化」「笑顔づくり」の三つを合言葉として掲げた。

大阪府のぶどう農家生まれ。博士(文学)(神戸大学)。神戸大学大学院単位取得退学後、徳島大学総合科学部助教授、同志社大学文学部教授などを経て、2015年から本学国際教養学部教授。2017年4月から副学長、2018年4月から理事・

学長代理兼務。これらの経験を生かすことと同時に、専攻である日本近現代文学研究の成果とこれまでの教育歴をも最大限活用した大学運営を心掛けた。また、学生には学びを通して世界を見つめ直してほしいと考えている。

主な著書に『宿命の物語を創造する』『まほろば文学街道』『匂いと香りの文学誌』『触感の文学史』『偶然の日本文学』『近代旅行記の中のイタリア』『永井荷風ジャンルの彩り』『食通小説の記号学』『小説の方法』『ベストセラーのゆくえ』『永井荷風・音楽の流れる空間』など。

昭和女子大学

こはら なつこ
小原 奈津子

昭和女子大学 学長



金子朝子前学長の退任に伴い、4月1日付で小原奈津子教授が第10代学長に就任した。任期は2022年3月31日までの2年である。

小原奈津子新学長は、1954年和歌山市生まれ。茨城大学理学部卒業、お茶の水女子大学大学院理学研究科修士課程修了、東京工業大学大学院理工学研究科博士課程修了。工学博士。2007年副学長、2014年理事、2017年常務理事を歴任。専門は繊維化学。主な研究テーマは、化学修飾による天然繊維への機能性付与、セロコース繊維の光劣化機構。

1993年に繊維学会論文賞を受賞。著述論文は、「アルキレンオキシンド処理した絹および羊毛繊維中の化学修飾アミノ酸に対するガスクロマトグラフィー・マススペクトロメトリー」（日本化学会誌）、「The Effect of Reduction and Succinylation on Water Absorbance of Wool Fibers」(Textile Research Journal) 他、多数。

最近の主な社会的活動は、日本家政学会被服材料学部会幹事、繊維学会繊維加工研究会委員会幹事、セルロース学会評議員、日本繊維製品消費科学会諮問委員などがある。

私大連 TOPICS

令和2年春の叙勲・褒章

(私大連事業関係者)

◆ 旭日中綬章

白井 善康 (大阪学院大学総長)

◆ 瑞宝中綬章

小嶋 博 (名古屋学院大学元学長)

山崎 勝男 (早稲田大学名誉教授)

◆ 瑞宝小綬章

讚井 浩平 (上智大学名誉教授)

私大連公式Facebookページ

私大連公式Facebookを開設しています。「大学時報」発行のお知らせはもとより、各号発行前に、座談会の開催報告や、クローズアップインタビューの担当インタビューによる記事投稿も行っています。ぜひご覧ください。

[<https://www.facebook.com/shidairan/>]

岡本英男(おかもとひでお)

東京経済大学学長。東北大学大学院経済学研究科博士(後期)課程単位取得退学、東京大学博士(経済学)。¹⁸より現職。専門は財政学。主著『福祉国家の可能性』など。

野口光一(のぐちこういち)

兵庫医科大学学長。⁷⁹京都大学工学部卒、⁸³大阪大学医学部卒、⁹⁴兵庫医科大学第2解剖教授等を経て、¹⁶より同大学長。専門分野は解剖学、神経科学など。

仲地博(なちひろし)

⁷⁴明治大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。琉球大学法文学部長、沖縄大学副学長、同学長を歴任。共編著『憲法政治』、共訳『憲法と社会構造』。

福元 摩湖(ふくもとまこ)

神奈川大学事務局次長。⁸⁶神奈川大学法学部法律学科卒。

八重樫理人(やえがしりひと)

香川大学創造工学部教授。⁰⁵芝浦工業大学大学院工学研究科博士(後期)課程修了。博士(工学)。専門はソフトウェア/情報システム設計法とその応用。

猪股 星慧礼(いのまたせえら)

フェリス女学院大学教務課係長。

甲斐田 昌太朗(かいだしょうたろう)

フェリス女学院大学教務課主任。

大島 佳代子(おおしまかよこ)

同志社大学政策学部・総合政策科学研究科教授。北海道大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。博士(法学)。⁰⁴より現職。『世界の人権保障』(共著)等。

林 正夫(はやしまさお)

学校法人修道学園理事長。⁶³立教大学経済学部卒。⁰⁰より現職。⁸³から¹⁹まで広島県議会議員。⁰⁷から¹⁵広島県議会議長、¹⁴・¹⁵全国都道府県議会議長会会長を務める。

中尾 匠吾(なかおしょうご)

青山学院大学学生生活部学生生活課。中央大学卒。入職後、科研費や認証評価申請、ポランティアセンター設置等を担当。¹⁷6月より現部署に所属。

田中康一郎(たなかこういちろう)

九州産業大学理工学部情報科学科教授。⁹³九州工業大学情報工学研究科情報科学専攻修士課程修了。博士(工学)。計算機システム・ネットワーク、ソフトウェア、電子デバイス・電子機器専攻。

藤元 健史(ふじもとたけふみ)

筑波大学事業開発推進室主幹。⁹²福島県立白河高等学校卒業後筑波大学に採用。現在に至る。

志村 知美(しむらともみ)

追手門学院大学教務部アサーティブ課課長、アサーティブ研究センター研究員。¹³名城大学大学院大学・学校づくり研究科大学・学校づくり専攻修了。修士(教育経営)。

岡田晴恵（おかだはるえ）

白鷗大学教育学部教授。共立薬科大学（現慶應義塾大学薬学部）大学院修士課程修了、順天堂大学大学院医学研究科博士課程中退、ドイツ・マールブルク大学医学部ウィルス学研究所に留学。日本経団連21世紀政策研究所シニア・アソシエイトなどを経て、現職。著書多数。

納谷和誠（なやかずあき）

東京医療保健大学和歌山看護学部助教。'13和歌山県立医科大学大学院保健看護学研究科修士課程修了。'07より日本赤十字社和歌山医療センターICU勤務。'19より現職。

伊藤彰浩（いとうあきひろ）

西南学院大学外国語学部長。'99広島大学大学院教育学研究科博士課程修了。博士（教育学）。'17から'19文学部長、'20外国語学部長。専門は英語学（第2言語習得論）。

渡邊力生（わたなべりきお）

梅花女子大学心理こども学部心理学科講師。'08大阪府立大学大学院修士（専攻…臨床心理学・獣医学）。一般動物病院での勤務医を経て、'14より現職へ。

島菌進（しまのすすむ）

上智大学実践宗教学研究科教授、同グリーフケア研究所所長。東京大学大学院人文科学研究科単位取得退学。文学修士。専門・宗教学、死生学。著書『日本人の死生観を読む』、『ともに悲嘆を生きる』など。

小野京子（おのきょうこ）

日本女子大学家政学部通信教育課程児童学科特任教授、表現アートセラピー研究所代表。米ソノマ大学大学院にて修士号取得。臨床心理士。国際学会認定表現アートセラピスト。

（お断り）本稿は、お書きいただいた資料から、できる限り統一して掲載いたしました。

会長の動き

- 3月3日(火)
第10回常務理事会に出席
- 3月17日(火)
第10回理事會に出席
- 3月31日(火)
経団連「採用と大学教育の未来に関する産学協議會」(オンライン會議)に出席
- 4月14日(火)
経団連「月刊経団連6月号」座談會(オンライン)に出席

インターンシップに関する
共同声明の公表

インターンシップに関し、国・公・私立大学、短期大学、高等専門学校と就職情報会社の8団体が共同声明を公表しました。

学生の学修経験時間確保の重要性を踏まえ、学事日程に影響のない土日祝、長期休暇での実施を推進すること、ワンデーインターンシップの表記を使用しないという声明で、今後、企業への理解を求めていくこととしています。

▼詳細は、下記の私大連ウェブサイトをご覧ください。

新型コロナウイルス感染症に関する
要望を提出

私大連では、今般の新型コロナウイルス感染症に関する要望を文部科学省及び企業団体に提出しました。

家計が急変する学生、遠隔授業、研究・医療体制、定員管理や国の調査について緩和や支援措置を求めています。また、2020年度卒業予定者の就職活動に関し、インターネット等を活用した情報の提供、エントリーシートや健康診断書の提出について柔軟かつ限定的対応を要望しています。

▼資料は、下記の私大連ウェブサイトにて公表しています。



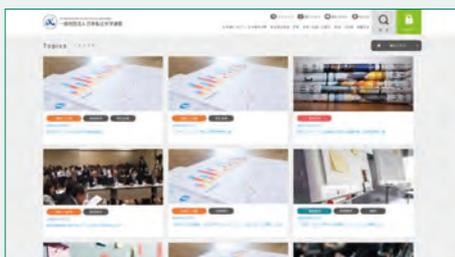
記者会見にて共同声明を公表する
土屋恵一郎 就職問題委員会委員長・
私大連常務理事

新型コロナウイルス感染症に関する
加盟大学の対応状況の共有化

私大連では、新型コロナウイルス感染症に関する国等の情報を発信するとともに、加盟大学の対応状況をお寄せいただき、加盟大学間で共有しています。

▼詳細は、左記の私大連ウェブサイトをご覧ください。

* 加盟大学の対応状況については、会員メニューで情報提供しています。会員メニューは、加盟大学関係者が会員登録いただくことで閲覧可能です。



私大連ウェブサイトにて
新型コロナウイルス感染症に関する情報を公開
<https://www.shidaiaren.or.jp/>





University Current Review

大学時報

奇数月 20 日 (年 6 回) 刊行

WEB サイトにて、
全文無料公開中

※第301号
(2005年3月発行)から

詳細は

<https://daigakujihou.shidaiaren.or.jp/>



第388号

(2019年9月発行)



【特集】

留学生に対する 学習面での日本語サポート

【座談会】学生実態調査の活用と課題

【インタビュー】少路和伸氏(画家)

第389号

(2019年11月発行)



【特集】

東京2020オリンピック・パラリンピック 競技大会開催と連携した大学の取り組み

【座談会】大学広報紙の課題と展望

【インタビュー】阿部 賀寿男氏(株式会社阿部蒲
鉦店 代表取締役社長)

第390号

(2020年1月発行)



【特集】

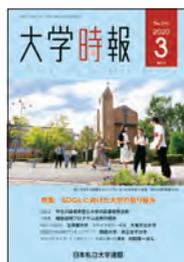
学生食堂の課題と今後のあり方

【座談会】変わりゆくオープンキャンパスのあり方

【インタビュー】塚田 真希氏(東海大学体育学部講師、
全日本柔道連盟全日本強化スタッフ・女子コーチ)

第391号

(2020年3月発行)



【特集】

SDGs に向けた大学の取り組み

【座談会】学生の読書実態と大学の読書啓発活動

【インタビュー】村田 陽一氏(トロンポーン奏者)

座談会

「大学イメージの定着化によるブランディング」

クローズアップ・インタビュー

「水野正人さん(株式会社ミズノ相談役会長)」

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う影響により、次号は7・9月合併号として9月20日発行予定です。

お知らせ

編集後記

◆本冊子が発刊されている頃、新型コロナウイルスの感染拡大は収まり、大学の授業は「正常化」しているだろうか。

大学時代はたったの4年。その期間には、たっぷりの教養に浸り、多様な価値観を持った多くの人々との出会い、感性を磨き、そして、圧倒的な大局観、世界観を獲得する、人生にとって重要な時間と空間だ。

今、それを提供できないでいることに苛立ちと、やるせなさ、申し訳なさを感ずる。

さて、今号の特集では、「大学間による学生交流(国内留学制度)の現状と課題」と題し、5つの大学に執筆をお願いした。大学間交流を導入したきっかけや目的、背景などはさまざまであるが、異なる環境で幅広い知識を得る有効な制度である。

感染拡大が収束した暁には、ぜひ貪欲に制度を利用し、自大学を飛び出して、多様な経験をし、人間の幅を広げてほしい。(広報・情報委員会 大学時報分科会前委員、関西学院 大学法学部事務局長 筒井弘幸)

◆新型コロナウイルス感染症による影響でキャンパスへの入構を制限する大

学が相次いでいる。さらに各大学では、授業開始時期の延期やオンラインでの授業実施などの対応を余儀なくされている。緊急時対応に関する情報伝達はホームページに頼らざるを得ず、学内の掲示板などはまったく機能しなくなってしまった。

今回の小特集では、そんな緊急時でも的確に情報を届けることのできるツールとしてアプリの可能性を大いに感じていただくことができるのではないだろうか。

また、各大学の事例を拝読すると在学生だけに限らず、受験生や卒業生に対しても情報を届けることができ、かつ双方向的なやり取りも可能としている。

こんな状況化だからこそアプリの活用で何ができるのかを真摯に考える契機とし、よりよい情報伝達を行える仕組みづくりにつながっていくことを期待したい。(広報・情報委員会 大学時報分科会委員・法政大学多摩 事務部学務課主任 須藤智徳)

◆記憶に残るリニューアル初号となった。年が明けた矢先、世界を新型コロナウイルスが席卷した。2020年4

月7日、7都府県に緊急事態宣言が出され、同4月16日にはその対象が全国に拡大した。

大学は卒業式・入学式に代表される各種イベント自粛にはじまり、キャンパス入構制限、春学期の開始時期変更や授業のオンライン化など対応にいとまがない。その調整、準備、学生への説明など、先が見通せない中で緊急対応を担う大学教職員の皆様のご苦労は計り知れない。

本誌も「座談会」と「クローズアップ・インタビュー」の掲載を断念したが、この状況下で原稿をご執筆くださった関係各位に心からお礼申し上げます。

人生にピンチは何度もやってくる。チャンスも何度もやってくる。非日常は我慢も多いけれど、できることを工夫して乗り越えよう。自分に何ができるか考えよう。必ず落ち着く時は来る。(日本私立大学連盟事務局 権藤和代)

「座談会」及び「クローズアップ・インタビュー」は、新型コロナウイルス感染症による影響で開催を延期したため、本号での記事掲載はありません。

一般社団法人 日本私立大学連盟 加盟大学一覽

※ 大学名ABC順 / ※ }は同一学校法人 (125大学 令和2年5月20日現在)

愛知大学
 亜細亜大学
 青山学院大学
 跡見学園女子大学
 梅花女子大学
 文教大学
 筑紫学園大学
 筑京大学
 中央大学
 大東文化大学
 獨協大学
 獨協医科大学
 姫路獨協大学
 同志社大学
 同志社女子大学
 フェリス学院大学
 福岡大学
 福岡女学院大学
 福岡女学院看護大学
 学習院大学
 学習院女子大学
 白鷗大学
 阪南大学
 広島女学院大学
 広島修道大学
 法政大学
 兵庫医科大学
 兵庫医療大学
 実践女子大学
 智大
 上城大学
 城西国際大学
 順天堂大学

金沢星稜大学
 関西学院大学
 関西学院大学
 関東学院大学
 慶應義塾大学
 恵泉女子学園大学
 敬和学院大学
 神戸女学院大学
 神戸海星女子学院大学
 皇學館大学
 國學院大学
 国際武道大学
 国際基督教大学
 駒澤大学
 甲南大学
 久留米大学
 共立女子大学
 京都産業大学
 京都精華大学
 京都橘大学
 九州産業大学
 松山大学
 松山東雲女子大学
 明治大学
 明治学院大学
 宮城学院女子大学
 桃山学院大学
 桃山学院教育大学
 武蔵大学
 武蔵野大学
 武蔵野美術大学
 名古屋学院大学

南山大学
 日本大学
 日本女子大学
 ノートルダム清心女子大学
 大阪学院大学
 大阪医科大学
 大阪薬科大学
 大阪女学院大学
 大谷大学
 追手門学院大学
 立教大学
 立正大学
 立命館大学
 立命館アジア太平洋大学
 龍谷大学
 流通科学大学
 流通経済大学
 西武文理大学
 聖学院大学
 成城大学
 聖カタリナ大学
 成蹊大学
 西南学院大学
 聖路加国際大学
 清泉女子大学
 聖心女子大学
 専修大学
 石巻専修大学
 芝浦工業大学
 白百合女子大学
 仙台北百合女子大学
 昭和女子大学
 創価大学

園田学園女子大学
 大正大学
 大拓殖大学
 天理大学
 東邦大学
 東北学院大学
 東北公益文科大学
 東海大学
 常磐大学
 東京医療保健大学
 東京女子大学
 東京女子医科大学
 東京経済大学
 東京農業大学
 東京情報大学
 東京歯科大学
 東洋大学
 東洋英和女学院大学
 東洋学園大学
 豊田工業大学
 津田塾大学
 和光大学
 早稲田大学
 山梨英和大学
 四日市大学
 四日市看護医療大学

大学時報

University Current Review
 2020/5月号

第69巻392号(通巻406号)
 令和2年5月20日発行

編集人 音好宏(上智大学文学部教授)

発行人 松岡敬(同志社大学前学長)

発行所 一般社団法人 日本私立大学連盟

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25
 私学会館別館
 電話 03-3262-4362 FAX 03-3262-4363
<https://www.shidaiaren.or.jp>

編集 株式会社 WAVE

〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田3-3-20
 明治安田生命大阪梅田ビル3階
 〒104-0061 東京都中央区銀座3-10-9
 KEC銀座ビル9階

松田美佐(中央大学文学部教授)
 小島隆久(同志社女子大学広報部広報室長)
 須藤智徳(法政大学多摩事務部学務課主任)
 中山映(上智大学総務局SGU事業推進室長)
 依藤康正(関西大学総合企画室広報課長)
 永野誠(関西学院大学高大接続センター入試課長)
 田上雅徳(慶應義塾大学法学部教授)
 兼高聖雄(日本大学芸術学部教授)
 長野香(立教学院広報室長)
 青柳祐(立命館大学総合企画部広報課長)
 山田健太(専修大学文学部教授)
 長野留三子(大正大学総合政策部広報課長)
 鈴木宏隆(早稲田大学広報室長)
 齋藤淳(日本私立大学連盟事務局)
 加賀崎奈美(日本私立大学連盟事務局)
 権藤和代(日本私立大学連盟事務局)

